

令和6年産 果樹情報（第2号）

令和6年5月2日
宮城県大河原農業改良普及センター

着果過多に注意し、早めの予備摘果を実施しましょう。

1 気象経過

3月の気候は、周期的に変化し、上旬は、寒気の影響で気温が平年より低く、3月22、23日は、それぞれ-4.6、-3.8の最低気温となりました。一方、4月以降の平均気温はかなり高くなり、凍霜害の恐れのある日はありませんでした(図1)。

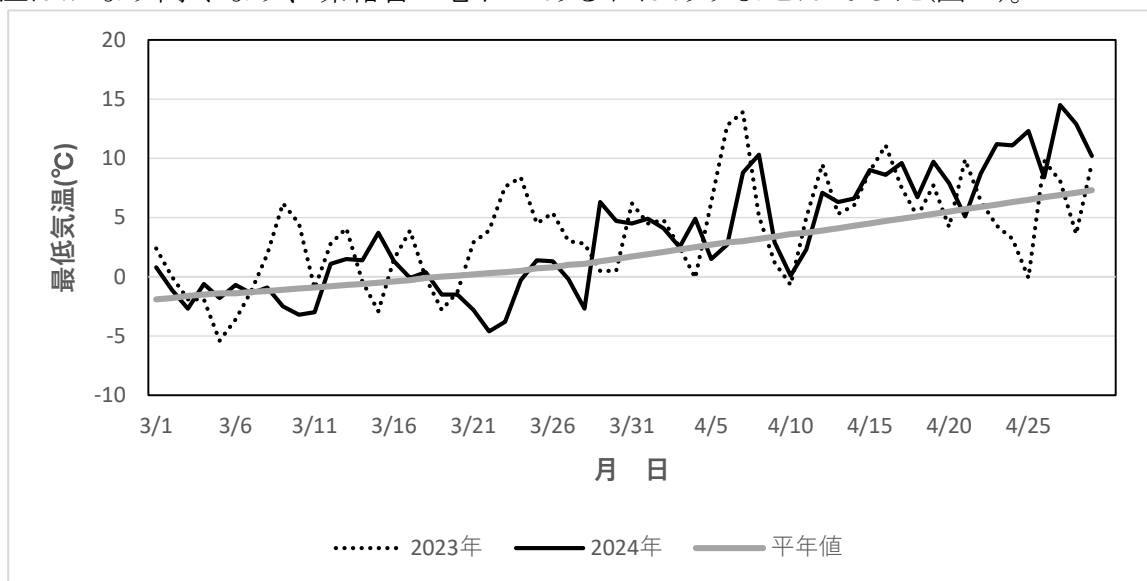


図1 3月から4月の最低気温の推移(アメダス白石)

2 果樹作況調査ほの発芽・開花状況

大河原管内の果樹作況調査ほの発芽・開花状況は、表1のとおりです。
満開期は、どの樹種も平年に比べて、5日から8日早まりました。

表1 各樹種の発芽から開花状況

樹種	地点	品種	発芽期		展葉期		開花始		満開期		落花期	
			本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年	本年	平年
りんご	白石・郡山	ふじ	3/25	3/29	4/3	4/8	4/17	4/25	4/22	4/29	4/28	5/5
		幸水	3/31	4/2	4/11	4/16	4/15	4/21	4/17	4/24	4/28	5/3
なし	角田・豊室	豊水	3/28	3/30	4/7	4/14	4/11	4/18	4/14	4/22	4/27	4/30
		幸水	4/4	4/5	4/15	4/20	4/17	4/25	4/20	4/28	4/30	5/6
	蔵王・高木	豊水	3/29	4/3	4/12	4/16	4/15	4/23	4/17	4/25	4/28	5/4
もも	丸森・館矢間	あかつき	3/18	3/25	4/14	4/15	4/6	4/10	4/11	4/16	4/19	4/23

3 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 予備摘果

- ・ガク立ちまでは、えき芽や不良着果位置（概ね 30cm 以上の長果枝先端、骨格枝上の逆さ実となる位置など）にある果そうを全摘果しましょう。
- ・ガク立ちが確認できる満開後 10 日頃以降は、頂芽 1 果そうに 1 果（可能な限り中心果）を残し、満開後 30 日までに終えるようにします。

ロ 摘果剤の利用

- ・摘果剤として、ミクロデナポン水和剤 85 の 1, 200 倍液を使用する場合は、満開後 1～4 週間に、成木園では 10a 当たり 350～400L を目安に展着剤を加用して、果実及び果そう葉によく付着するように散布します。本剤を使用する場合は、りんご品種により摘果効果が異なるので、薬害や過剰摘果とならないよう使用上の注意事項をよく確認して下さい。

表 2 農薬の使用方法 令和 6 年 4 月 24 日現在

作物名	薬剤名	使用目的	希釈倍数	使用時期	使用回数
りんご	ミクロデナポン水和剤 85 (NAC 水和剤)	摘果	1, 200 倍	満開後 1 ～4 週間	2 回以内

ハ カルシウム剤の果面散布

- ・ビターピットやコルクスポットの発生しやすい園地では、幼果期以降にカルシウム剤の散布を 3～5 回行うと発生が軽減されることがあります。

ニ 病虫害防除

・ハダニ類

園地内をよく観察し、発生初期に殺ダニ剤を散布しましょう。

・褐斑病

昨年発生の多かった園地では、5 月に効果の高い殺菌剤を散布しましょう。

(2) 日本なし

イ 予備摘果

- ・翌年の着果量への影響が大きいため、結実状況や果実の障害等をよく確認し、着果の多い園地から摘果を始めましょう。

ロ 仕上げ摘果

- ・満開後 45～50 日頃までに、果そう葉が多く、果形の良い大きい果実を残します。
幸水：目安は、短果枝が 3 果そうに 1 果、長果枝が 2～2.5 果そうに 1 果
豊水：目安は、4 果そうに 1 果

ハ 新梢管理（芽かき）

- ・不要な芽を整理するため、主枝や亜主枝の背面から発生した芽や、太い切り口から発生した上向きの強い芽は早めにかきとります。

二 病虫害防除

・黒星病

開花後は、果そう基部病斑からの孢子飛散が主になり、濡れ時間が 20℃の時、9 時間あると感染が成立すると言われています。果そう基部病斑のある果そうは除去し、園外で処分します。果そう基部病斑のある果そうは、りん片が脱落しにくいので見つけるポイントとなります。

・アブラムシ類、ニセナシサビダニ、アザミウマ類

発生初期に防除を行いましょう。

(3) も も

イ 摘果

- ・仕上げ摘果は、満開後 40 日頃から硬核期開始の満開後 50 日頃までに実施し、硬核期終了後に修正摘果で適正着果量とします。
- ・着果量の目安：長果枝は 1～2 個、中果枝は 0～1 個、短果枝は 0～1 個です。

ロ 新梢管理

- ・5 月下旬～6 月中旬頃は、新梢の生育が最も盛んな時期なので樹勢の強い樹や若木等では樹冠内が混雑しやすくなります。樹冠内部、主枝・亜主枝・側枝の基部など徒長しやすい新梢は、早めに摘心や夏季せん定を実施し、全体に光が当たり、風通しが良くなるように心がけましょう。
- ・硬核期間中の過度な夏季せん定は、核割れや生理落果を助長するおそれがあるので最小限とし、硬核期終了後に実施します。

ハ 病虫害防除

・灰星病

花腐れや花腐れから進展した枯れ枝は切除し、園外で処分します。

・ホモプシス腐敗病

枝折れが見られる場合には見つけ次第切除し、園外で処分します。

・せん孔細菌病

1 年枝の枝皮部の黒変や新梢葉の生育不良を目安に、一次伝染源である春型枝病斑は切除し、園外で処分するとともに、雨を伴う強風が吹いた後はただちに防除を行います。

中国での火傷病発生に伴う園地調査のお願い

火傷病については、昨年の調査の結果、これまでに本病の発生報告はありませんが、本病の侵入・まん延防止に万全を期すため、本病の症状を確認しやすい春季においても、**あらためて調査を実施いただくようお願いいたします。**

なし・りんごにおける火傷病の確認マニュアル

～花や果実の確認～

開花から1～2週間後や果実形成期に見られる症状です。

1:開花から1～2週間後の確認ポイント

○花全体がしおれて、**褐色又は黒色**になって枯れる。

○温暖多湿条件下では、花柄に白色～褐色、黒色の細菌泥が見られる。



花全体がしおれる様子

2:果実形成期の確認ポイント

○幼果の表面にはりんごでは白色～褐色なしでは白色～黒色の細菌泥が見られることが多い。

→幼果の腐敗

〔りんごでの被害〕

(提供: Syngenta United States)



○果実は灰緑色、水浸状となり、やがて褐色又は黒色に枯れる。

○枯れた幼果は**ミイラ果**となって樹上に残る。



→幼果のミイラ果症状

〔洋ナシでの被害〕

(提供: 三井物産株)

病徴の写真については、以下もご参照ください。
農林水産省HP:「侵入調査マニュアル」で検索。

これらに該当する症状が確認された場合

- ▶樹の症状の有無及び症状を呈している樹の本数を、最寄りの農業改良普及センター等にご連絡ください。
- ▶使用した農機具等の消毒をお願いします。
- ▶症状のある樹や枝の伐採などを行わずそのまゝの状態を維持してください。

問い合わせ先: 県みやぎ米推進課 (tel.022-211-2845)

県病害虫防除所 (tel.022-275-8960)